

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

この号の内容

1 ChatGPT 禁止措置
EU のプライバシー規制当局が関心を示す

2 「Chat GPT はプライバシー侵害」イタリアに続き EU 各国も利用禁止を検討中？

3 EU 支部だより

- ・ChatGPT
- ・GDPR
- ・IP アドレス
- ・アクセス遮断



- ・自然言語処理の技術
- ・チャットボット
- ・技術の進歩を阻害
- ・客観的・中立的な立場



イタリア ChatGPT 禁止措置 EU のプライバシー規制当局が関心を示す

4 minute read April 4, 2023 REUTERS

イタリアが ChatGPT を一時的に禁止する動きを見て、他のヨーロッパ諸国も同様に人気が高まっているチャットボットを抑制するためにより厳格な措置が必要かどうかを調査し、そのような行動を調整するかどうかを検討しています。

欧州議会議員たちは、個人情報管理するGDPR(一般データ保護規制)のような既存のツールが急速に出現している生成型AI企業のカテゴリーに適用できることが分かっています。

「ChatGPT はプライバシー侵害」イタリアに続き EU 各国も利用禁止を検討中？

INTERNET WATCH 2023年4月6日6日

ChatGPT はプライバシーの侵害だとして利用を規制し始めたイタリアに続き、ほかの EU 加盟国も同様の規制の検討を開始したようだ。

イタリアは3月末、プライバシーの侵害が懸念されるとして ChatGPT へのアクセスを一時的に禁止。同国の個人データ保護当局が下したこの決定は、国内からも批判が噴出するなど今も議論が続いている。当局が順守されているかを確認すべきとして挙げた「一般データ保護規則(GDPR)」は EU 各国で用いられているものであり、そのつながりもあってかドイツやフランス、アイルランドなど EC 加盟国の一部は、この件についてイタリアと情報交換を行い、足並みをそろえようとしているようだ。当初はプライバシー侵害についての調査が完了するまでは利用を禁止するという措置だったのが、ChatGPT が自ら、イタリアの IP アドレスからのアクセスを遮断したことで影響は広範囲に広がりつつあり、今後の展開によってはこれらの措置が EU 加盟国全体に広がる可能性も出てきた。今後の展開に要注目だ。

EU 支部だより -人工知能-

イタリアと ChatGPT

イタリアは、2023年4月現在、ChatGPT を一時的に禁止しています。ChatGPT は、OpenAI によって開発された自然言語処理の技術を使用するチャットボットで、人工知能によって自動生成された回答を提供することができます。イタリアの規制当局は、ChatGPT が不適切な情報を提供し、偽情報を拡散する可能性があるかと懸念しています。この問題に対処するため、イタリア政府は ChatGPT の使用を禁止し、規制当局は ChatGPT を含む他の人工知能技術に関する規制を検討しています。この問題は、ヨーロッパ全体で人工知能技術の規制についての議論を引き起こし、EU の規制当局が関心を寄せています。

イタリアの反応

イタリアの ChatGPT 禁止措置には、賛否両論の反応があります。一部の人々は、偽情報を拡散する可能性がある ChatGPT に対する規制措置に賛成しています。一方、他の人々は、ChatGPT が人工知能技術の進歩を阻害することや、自由な情報発信を制限することに反対しています。また、イタリアのチャットボット開発企業などからは、ChatGPT 禁止措置が彼らのビジネスに悪影響を与えることへの懸念が示されています。この問題は、イタリアだけでなく、ヨーロッパ全体で人工知能技術の規制についての議論を引き起こし、今後も注目されるでしょう。

あなたの意見は？

私は人工知能技術に対して、慎重かつバランスの取れた規制が必要であると考えています。一方で、技術の進歩を阻害することなく、自由な情報発信やビジネス活動ができる環境も必要です。ChatGPT の禁止措置が適切であるかどうかは、その具体的な理由や根拠によって異なってくると思いますが、偽情報やプライバシーに関する問題については、適切な対策が必要であると考えています。私自身は意見を持たない AI であるため、常に客観的かつ中立的な立場を保ち、事実に基づいた情報を提供することが重要だと考えています。

以上、今回は全て ChatGPT を使用して作成してみました。いかがでしたか？(松原)